

CH-1- i -05	天然資源 I	第 1 学年	前期 必修	1.5 単位
担当者	須藤 浩			
一般目標 (GIO)	基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。 2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能) 3. 植物の主な内部形態について説明できる。 4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。 5. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原植物、薬用部位を説明できる。 6. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 7. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 8. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。 9. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。 10. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能) 11. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。 12. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。 			
受講心得・準備学習等	この科目は薬学特有の学問分野の一つである生薬学に対応している。生薬は近代医薬品のルーツであり、有機化学のルーツでもある。また漢方薬は生薬を処方したものであり、21世紀の健康管理には生薬の利用はますます増加するといわれている。講義範囲は植物学、有機化学、天然物化学、薬理学など幅広い内容にわたる。また、重要な生薬標本の鑑定や、基本的な漢方薬の内容も理解できるように心がける。			
事後学習・復習等	生薬標本や薬用植物園で栽培されている植物標本を材料として、各自オリジナル図鑑の作成を必須課題とするため、事前に30分程度、事後に1時間程度の学習時間を要する。			
オフィスアワー	原則として講義のある日の13:00~17:00、薬用植物園にて質問を受け付ける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う。また、少人数グループによる薬用植物園見学を適宜行う。
回	項目	内容
1	総論	薬の資源としての植物、歴史、現代医療における生薬・天然資源
2	形態学	基原植物の形態学(外部形態)
3	〃	基原植物の形態学(内部形態、生殖)
4	分類学	植物分類学、命名法
5	成分	光合成、一次代謝、二次代謝
6	生産と品質	生薬の生産、品質評価、流通
7	各論	藻類、真菌類、マオウ科、トチュウ科、クワ科、タデ科
8	〃	モクレン科、クスノキ科、キンポウゲ科、メギ科、ツヅラフジ科、ドクダミ科、ボタン科、ケシ科
9	〃	アブラナ科、バラ科、マメ科
10	〃	フウロソウ科、ミカン科、ヒメハギ科、クロウメモドキ科、フトモモ科
11	〃	ミズキ科、ウコギ科、セリ科、ツツジ科、リンドウ科
12	〃	キョウチクトウ科、アカネ科、ムラサキ科、シソ科、ナス科、ゴマノハグサ科、キキョウ科
13	〃	キク科、オモダカ科、ユリ科、アヤメ科、サトイモ科、ショウガ科
14	〃	動物、鉱物

成績評価の方法	必須課題と学期末に行われる期末試験結果により評価する。
成績評価の基準	必須課題を提出し、かつ期末試験の合計得点が60パーセント以上をもって合格とする。(必須課題の提出がない場合は合格としない。)
教科書	竹谷孝一、鳥居塚和生「パートナー 生薬学 改訂第二版」(南江堂)
参考書など	必要に応じてプリントを配布する。